



Honda熊本

[大津町／九州第2代表]

主将・竹葉章人



Honda

[東京都／東京第3代表]

主将・辻野雄大



Honda鈴鹿

[鈴鹿市／東海第3代表]

主将・長野勇斗

都市対抗
野球大会
2025
W.B.SPECIAL

[CLOSE UP TEAM]

「夢を力に」いざ頂点へ

野球に加え陸上競技やラグビーなど、複数のスポーツに力を入れるHonda。

今夏の都市対抗では、東京ドームに3拠点の野球部が勢ぞろいする。

昨年はいずれも予選敗退と苦杯をなめたが、時間をかけて立て直した。

目指すは王者の証・黒獅子旗。

Honda勢による頂上決戦も夢見て戦う。

文=大平 明 写真=藤井勝治、橋田ダワー、佐々木亨

[CLOSE UP TEAM] 「夢を力に」いざ頂点へ

スポーツが持つ価値を 最大限に生かす

「Honda Sports Challenge」、銘打ち、

現在は企業所属の公式クラブとして硬式

野球部の3チームに加え、陸上競技部、

ラグビー部、サッカー部、ソフトボール

部と5競技で7チームを所有している。

スポーツプロモーション部の松浦康子部

長は「スポーツチームはホンダで働く従

業員の一体感の醸成に加え、地域など、

ホンダを取り巻くさまざまなステークホ

ルダーと一緒に携を深めることを目的に活動

しています」と話す。ほかにもゴルフを

始めとしたアスリートスポーツ、車い

す陸上競技やゴルフトーナメント、熱気

球といった大会協賛も行っている。

スポーツプロモーション部は2022

年に設立された。「今、自動車業界は1

00年に一度の大変革期を迎えており、

我々も一層チャレンジしていかなければ

ならない局面にあると認識しています。

その中でスポーツが持つ価値を最大限に

生かすことが、ホンダを動かす大きな原

動力になるのではないかと考えて活動の

強化を決めたのが3年前のことでした」と松浦部長。ホンダはグローバルスローガンとして「The Power of Dreams」

を掲げてきたが、その「夢を力に」とい

う思いと競技に打ち込むアスリートの姿

は親和性が強い。

「スポーツは裾野が広く、たくさんの方に共感を得られる取り組みだと捉えています。アスリートが夢に向かってチャレンジする姿勢を見ることで、社会の中で次の一步を踏み出そうとしている方々の背中を押すことができればと思っています」

9月に開催される『東京2025世界陸上』にはオフィシャルパートナーとして参加。「34年ぶりに東京で開催される世界最高峰の舞台でマラソンの運営車両などを提供することになりました。自動

車やバイクの製造・開発・販売といった

現場では、多くの従業員が電動化や環境負荷低減を目指してチャレンジをしていますが、そんなホンダの姿勢や想いも、

大会を通じて伝えられるのではないかと考えています」。

スポーツプロモーション部の活動のひとつとして、野球教室や交通安全啓発活動などをを行っている。7月には野球部の3チームが一堂に会し、3日間にわたり

「ホンダ・ベースボールマッチ」という交流戦を実施した。第6回となる今年は埼玉の笠幡球場で開催。土曜日と日曜日の2日間は従業員向けのイベントとして試合後にグラウンドを開放し、小、中学生ら子どもたちが野球部選手と共に野球体験を楽しんだ。「8月の都市対抗野球大会の壮行会のような位置づけで多くの方にお声掛けをしたところ、初めて交流戦を知った方もいらっしゃって『行って

「それぞれに違った良さがあるので、その魅力をお届けできれば」（松浦康子部長）



▲Honda硬式野球部の部長でもある松浦氏。加えて陸上競技部の部長も務める（写真＝橋田ダワー）

▼東京での初の代表をつかんだHonda硬式野球部。3拠点の中では最後に出場を決めた（写真＝佐々木亨）



球部（以下、ホンダ鈴鹿）とホンダ熊本硬式野球部（以下、ホンダ熊本）が活動

しているが、「企業スポーツは地域との連携が欠かせませんが、各地域で温かい

サポートをずっといただいており、関係性もより強固になっています」と感じています。

都市対抗の本大会になると自治体の連携が欠かせませんが、各地域で温かい

サポートをずっといただいており、関係性もより強固になっています」と感じています。

都市対抗の本大会になると自治体の方々が応援団を結成して東京ドームへ足を運んでくださるので本当に難く思っています」。

今夏の都市対抗には3年ぶりに3チームがそろって本戦出場を決めている。「それぞれに違った良さがあるので、その魅

力をお届けできれば。全力を尽くして、最後まであきらめることなく黒獅子旗を

勝ち取りにいきますので、応援のほどよ

さらにホンダでは、ホンダ鈴鹿硬式野

球部（以下、ホンダ鈴鹿）とホンダ熊本硬式野球部（以下、ホンダ熊本）が活動

しているが、「企業スポーツは地域との連携が欠かせませんが、各地域で温かい

サポートをずっといただいており、関係性もより強固になっています」と感じています。

都市対抗の本大会になると自治体の連携が欠かせませんが、各地域で温かい

サポートをずっといただいており、関係性もより強固になっています」と感じています。

都市対抗の本大会になると自治体の方々が応援団を結成して東京ドームへ足を運んでくださるので本当に難く思っています」。

今夏の都市対抗には3年ぶりに3チームがそろって本戦出場を決めている。「それ

ぞれに違った良さがあるので、その魅

力をお届けできれば。全力を尽くして、最後まであきらめることなく黒獅子旗を

勝ち取りにいきますので、応援のほどよ



Honda鈴鹿

[3年ぶり27回目]

■二次予選の結果

<第1代表決定トーナメント>

1回戦 ○ 5-0 vs.日本製鉄東海REX

2回戦 ● 4-9 vs.トヨタ自動車

<第3代表決定トーナメント>

3回戦 ○ 10-4 vs.JR東海

代表決定戦 ○ 5-3 vs.東邦ガス



Honda

[2年ぶり38回目]

■二次予選の結果

<第1代表決定トーナメント>

2回戦 ○ 10-0 vs.セガサミー

準決勝 ● 7-8 vs.鷺宮製作所

<第2代表決定トーナメント>

1回戦 ○ 6-1 vs.JR東日本

代表決定戦 ● 2-3 vs.東京ガス

<第3代表決定トーナメント>

代表決定戦 ○ 9-2 vs.JR東日本

▲4戦24得点と打線が機能した二次予選では、主将・長野と一、二番コンビを組む中川拓紀（写真）が打率4割超を記録

▲二次予選はチーム防御率1.50。昨年の社会人野球で最多勝利投手賞を初受賞、30歳のベテラン左腕・東野がエースだ

都市対抗の本戦出場は2年ぶり38回目、東京に所属を移してからは初めてとなるホンダ硬式野球部（以下、ホンダ）。就任2年目の多幡雄一監督（立大）は都市対抗の東京地区二次予選に備えて、さまざまな対策を講じてきた。「予選が行われる大田スタジアムの風に戸惑ったところがあるので対策をしましたし、球場までの移動距離も変わったのでオープン戦ではあえて移動時間を長くしたり、打撃練習をさせずにいきなり試合に臨ませたりして対応力をつけるためのスケジューリングをしてきました」。

昨年は第1代表決定トーナメントで後手を踏み、東京ドームへの切符も逃した。そのため辻野雄大主将（白鷗大）は「東京地区の予選では初戦が大事だと考えていました」と振り返る。今年は初戦（2回戦）でセガサミーを10対0で下し良い流れをつくると、JR東日本との第3代表決定戦は猛打が爆発。3本塁打を含む11安打を放ち、9対2で制した。「出場を決めたのは（3チームの中で）自分たちが最後でした。出られなかつたら立場がないと思っていたので本当に良かつたです」（多幡監督）。

チームの中心はエースの東野龍一（駒大）と辻野主将。「東野は昨シーズンの

長野も「監督がどんな野球をしたいのかを細かく伝えてもらい、その野球を実現するために選手たちで考えながらチームで戦つきました」と振り返る。

5月初旬のJABAペーブルース杯で優勝するなど、徐々にチーム力を上げて

ろしくお願いいたします」。

主将から監督へ直訴しチームで思いを一つに

最多勝投手。日本一と言つてもいいピッチャーで今年も同じようになら続けられています。辻野は都市対抗10年連続出場で表彰されることになるので、花を添えてほしい」と多幡監督は話す。また、JR東日本戦で本塁打を放った峯村貴希（日大）には「昨年の日本選手権はベンチ外で地獄を見たと思うのですが、今年は覚悟を決めてはい上がつてきました」と期待をかけている。

ホンダ鈴鹿は3年ぶり27回目の出場。

今季から指揮を執る眞鍋健太郎監督（駒大）はまず心を整えることを選手に説いた。「野球ができるのは当たり前のことはありませんから、野球をやる意義を考え、感謝の気持ちを持って一球一球を大事にしていくこと」と話しました。すると、主将の長野勇斗（青学大）が初練習を前にミーティングをさせてほしいと訴えてきたという。「チームとして何を大事にしていくのか、その基準を設けたいということでした。その中で『従業員の皆さんに喜んでもらう。地域の皆さまに応援してもらえる。そんな価値を持つた野球部になろう』という思いが大前提になりました」（眞鍋監督）。

長野も「監督がどんな野球をしたいのかを細かく伝えてもらい、その野球を実現するために選手たちで考えながらチームで戦つきました」と振り返る。

「大胆にチャレンジしてハツラツとしたプレーを見せたい。最後は“ホンダ対決”で日本一を決められれば」（ホンダ・多幡雄一監督）

本大会に出場できるように尽力したいです」と抱負を語っている。

都市対抗の目標について「ホンダのシンボルチームとして期待を感じています。2年分の思いを持って、我々らしく大胆にチャレンジしてハツラツとしたプレー

▲黒獅子旗を目指す戦いが始まる。地元の声援も背に一戦必勝で臨む
(左からHonda熊本・渡辺監督、Honda・多幡監督、Honda鈴鹿・真鍋監督)

を見せたい。最後は“ホンダ対決”で日本一を決められれば」と話すホンダの多幡監督。ホンダ鈴鹿の真鍋監督は「三重県のトップチームとしての誇りを持ち、地元の子どもたちがあこがれる存在になれるように使命を感じながら戦っていきたい。東海の代表として、そして、ホンダの一員としてトップを狙っていくします」と語る。そして、ホンダ熊本の渡辺監督は「地元の大津町は義理と人情、夢とロマンの町だと思ってるので全国にアピールできるように頑張ります。3チームとも直接対決をしたいと思っているはずなので切磋琢磨して勝ち上がっていくたい」と活躍を誓った。

勝ち上がればホンダとホンダ熊本が準決勝、その勝者がホンダ鈴鹿と決勝で激突することになる。『ホンダ対決』を実現させ、東京ドームの観客席をホンダ一色に染め上げることを、3チームの誰もが目指す。



夢が、人を動かしている。
Honda Sports Challenge

HONDA
The Power of Dreams

How we move you.
CREATE ▶ TRANSCEND, AUGMENT